

氏名	武田 美津代	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	基礎看護学				
学位	修士（学術）				
学歴	1984年埼玉県立短期大学第一看護学科卒業、1997年放送大学教養学部生活と福祉専攻、 2001年文教大学大学院修士課程 人間科学研究科生涯学習専攻修了、 2008年埼玉県立大学認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケアコース修了				
経歴	1995年新潟県立看護短期大学助手、1998-2002年埼玉県立衛生短期大学（埼玉県立大学短期大学部看護学科）助手、 2006年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、2009-2011年埼玉県立大学認定看護師教育課程 皮膚・排泄ケ アコース講師、2015年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科准教授				
所属学会（役職）	日本看護技術学会、日本看護研究学会、日本褥瘡学会、日本排泄・ストーマリハビリテーション学会、日本創傷・オ ストミー・失禁管理学会、日本生涯教育学会				

【2025年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作(著書及びその他の著作物)						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	2026年度版 准看護師試験問題集	共著	あり	医学書院； p 427	阿部佳子、天賀谷隆、生井明浩、 武田美津代 他（解答者31名）	2025.5
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻（号）、開始-終了ページ	著者、編者名
1	皮膚・排泄ケア認定看護師が訪問看護師 に行う褥瘡コンサルテーションー遠隔の 実施方法に着目してー	共著	あり		日本褥瘡学会誌 28 巻（1号）18-26	島田美穂、林裕栄、武田美津代、 善生まり子、辻玲子
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	該当なし					
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	看護過程論		16	科目責任者と授業の事前検討を行い、演習のサポートを行った。科目 責任者が不在となる側の実習室でリーダーとして円滑な演習運営を行っ た。看護過程の展開の演習では、対面で4～5グループ程度を担当して ペーパーペイシエントの事例展開に携わり、看護援助方法を未履修の1 年生が事例を理解できるよう助言しながら、看護計画立案の指導を 行った。		
2	看護方法Ⅰ		16	科目責任者と協力し、技術演習が習得できるよう事前検討を行い、感 染対策を考慮して4～5グループを担当して技術演習の指導を行った。学 内演習は限られた時間内に看護の基本技術を学習できるように留意し た。		

3	看護方法Ⅱ		16	科目責任者と協力し、技術演習が習得できるよう事前検討を行い、感染対策を考慮して4～5グループを担当して技術演習の指導を行った。原則を意識し、安全面に配慮をして時間内に生活援助の基本技術を学習できるように留意した。
4	看護方法Ⅲ		16	科目責任者と協力し、技術演習が習得できるよう事前検討を行い、感染対策を考慮して4～5グループを担当して技術演習の指導をおこなった。原則や安全・安楽面に配慮し、快適なケアを受ける経験を通して清潔に関する基本技術を学習できるように留意した。
5	看護方法Ⅳ	○	16	科目責任者して授業を計画し、科目担当者と打ち合わせを重ねながら感染対策と安全面を考慮しながら対面による講義と演習を行った。診断治療の技術演習は自宅でも動画視聴を行えるように準備し、自宅でも手技練習ができるように工夫した。
6	看護方法Ⅴ		16	科目責任者と協力し、授業が円滑に進むようにサポートした。オムニバスの2コマの授業を主体となって企画し、感染対策をしながら対面のグループワークなどに参加して学生指導を行った。
7	感染管理		8	対面による授業運営を準備し、グループワークや体験学習、ゲストスピーカーを招いて実践的な臨床の感染対策が学べるように計画した。講義では欠席者にも対応できるようにオンデマンドで対応した。
8	病態生理学	○	5	大学院生「がん看護CNSコース」「精神看護CNSコース」2名に対し、病態生理学の知識を用いた事例検討を遠隔授業で行った。科目の最初にケースレポートのまとめ方を講義し、非常勤講師の授業を学んでから臨床で気になっている任意の事例の看護をまとめるよう助言した。事例検討のためのプレゼンテーションや意見交換をふまえてレポートとしてまとめてもらい評価した。
(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	該当なし			
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要(教育内容・方法等において工夫した点)
1	ヒューマンケア体験実習		2025.9月	担当グループの科目責任者と連絡を密にし、3施設で計13名の学生を担当した。始めて実習担当となる指導者もいたため、対面の打ち合わせ以外にもメールで連絡を取りながら打ち合わせて準備をした。実習中は必要に応じて連絡を取り、目的到達できるよう支援し評価を行った。
2	基礎看護学実習Ⅱ		2025.10月	2年生計12名(1グループ6名×2)引率し、臨床における実習指導を行った。師長や指導者たちと連携し、学生の状況を共有しながら統一した関わりができるように心がけた。患者を1名受け持つことが基本であるが、退院などで2事例受け持つ学生もいたため、負担にならないように調整した。主体的に看護実践ができるよう思考と看護援助の実施を学生とともにを行った。実習施設の感染対策が徹底される中、学生の健康管理の指導を徹底した。
3	基礎看護学実習Ⅰ		2026.2月	3名の教員で37名の学生を引率し、学生の見学実習状況を見守りながら指導した。学生は初めての臨地実習であること、合理的配慮を要する学生も1名いたことから体調管理に気を配り、病棟との連携を密にした。グループワークやカンファレンスを通して実習目標到達できるよう介入した。
(4) 論文指導				
	対象		期間	主指導・副指導の別及び指導人数
1	卒業論文		2025.4月～12月	主指導 4名 副指導 名

(5) その他				
	名称	期間	概要（教育内容・方法等において工夫した点）	
1	東京都立豊島病院看護研究指導	2025.7月～ 2026.3月	6部署の看護師の研究指導を月1回（9～10月を除く）、対面で行った。看護研究について講義をした後、それぞれの研究テーマの相談、研究計画書の作成に携わった。対面以外にも必要に応じてメールでも対応し、施設の倫理審査が受けられるように準備をした。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	埼玉県新卒者など訪問看護師養成プログラム	埼玉県訪問看護ステーション協会	新卒者などで訪問看護師養成プログラム（半年コース、前期・後期）の参加者の事例検討会に参加し、看護検討と助言を行った。参加者の所属する訪問看護ステーション管理者と会議し、指導介入の困難や企画運営に関する意見交換を行った。	2025.4～ 2026.3
2	埼玉ストーリーナビリテーション講習会	埼玉ストーリーナビリテーション講習会実行委員会	ストーリーサイトマーキング班としてメンバーと実技・演習内容を企画し、当日の指導をした。	2025.12
3	ナーシングマッサージ研修会	看護における指圧マッサージ研修会	臨床の看護職（病棟看護師、助産師、訪問看護師）および看護教育に携わる教員を対象に、看護師がケアの中で安寧を促すためのマッサージ技術を実践的に学ぶ研修会を企画運営した。知識はオンデマンドとし、対面で技術を指導した。	2025.8
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	埼玉ストーリーナビリテーション講習会実行委員会	委員	2015.11～現在	
2	埼玉ストーリーナビリテーション実習準備委員会	委員	2019.4～現在	
3	新卒者など訪問看護師養成プログラム作成委員会	委員、ワーキング委員兼務	2016.4～現在	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			
5. 学内運営				
	項目	内容	期間	
1	全学的委員会及びセンター業務等	保健委員会	2025.4～	
2	該当なし	非常事態時の医師不在時に対応する看護師	2025.4～	
3	学生支援	2024年度卒業生ホームカミングティ	2025.6	
4	大学広報活動	オープンキャンパス 教員相談担当	2025.8	
5	学科等における委員会等	看護学科総務係	2025.4～2026.3	
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の取得				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
1	該当なし			